

【国際関係学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

特になし。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

カリキュラムマップについて、各科目との整合性および教育課程全体としての体系性について精査した。

② シラバス

複数年にわたる科目のシラバスに関して、年次間の順次性を明確に示す方法について検討を行った。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラム全体の体系性を可視化することを目的として、カリキュラムのイメージ図を試作した。

課題

- カリキュラムマップ上では、資質・能力の配当年次は確認できるものの、実際の授業内容や到達目標との対応関係について継続的な検証が必要である。
- シラバスにおいて年次間の順次性や科目間の関連性の示し方について、得の能力の重みを学生視点から可視化するための工夫が求められる。
- 作成したカリキュラムのイメージ図は、学生の実際の履修行動と必ずしも一致しない可能性がある。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

- 卒業成果物の到達目標および評価方法について、DP との整合性の観点から到達目標および評価方法に関する組織的な協議を行った。
- 複数開講必修科目、特に英語クラスの評価を共通化・適正化するため、新カリキュラムにおける国際関係英語科目において、授業内容・方法・課題の標準化に向けた教材および評価課題の共有を推進した。

課題

- 卒業時調査では、学部の専門知識を修得したと回答する学生の割合が高い一方で、卒業成果物の完成度と学生自身の修得実感が必ずしも一致していないことが明らかになった。
- GPA と修得実感との関係を見ると、GPA が中位層の学生よりも低位層の学生の方が「十分身についた」と回答している。この要因について検証が必要である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

- 英語カリキュラム科目について、評価方法の在り方を担当者間で協議し、複数開講されている必修

科目における学習成果の共通化および評価の適正化に向けた検討を行った。

- 学生による主観的評価と成績評価との関連性について検証を進めた。

課題

- 英語力そのものだけでなく、思考力や表現力といった他の資質・能力がどう関連して評価されているかが不明確である。
- 研究演習における卒業成果物については、学生の達成実感が高い一方で、教員間の評価にばらつきが見られる。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

- 資質・能力の習得状況を指標で確認し、学生の習得実感と客観的評価の関係性を検証した。

② 課題

- 自己評価が客観的評価と同じ資質・能力基準ではなく満足度ベースで行われている可能性があるため、自己評価の方法を資質・能力基準に沿ったものへと改善する必要がある。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☐ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。

→②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

記入例：教員組織の編制方針の策定後、教育課程の見直しを行っていないため、教授会等で審議の結果、現状のままとした。

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。